

もの言う牧師のエッセー 第352話

サッカーW杯小話

② 「ハチマキ作戦」

セネガル戦で愉快的ことが起こった。何と日本のハチマキを額に巻き、「ニッポン！」コールを送るロシア人の観客が大挙して現われ日本を応援してくれたのだ。「必勝」「合格」などと書かれたハチマキを巻き、手拍子を打ち鳴らして日本の反撃ムードを後押しした。会場を埋めた約3万2千人の観客の多くが現地のロシア人たちだったので、日本のイレブンとサポーターにとって大きな支えとなった。

実はこの日、試合開始前からエカテリンブルクの街中には日の丸をあしらったハチマキ姿のロシア人が大量に出現しており、中には「必勝」の文字が逆さまになっていたり、セネガル人までハチマキを巻いていたり、「これは何て書いてあるんだ？」と聞いてくる人も。ハチマキを配った仕掛け人は一部の日本人サポーターたち。日本に親しみを持ってもらおうと、100円ショップで買い集めたハチマキを大量にロシアに持ち込んだ。コロンビア戦では相手サポーターの数に圧倒されたが、セネガル戦ではロシア人の観客が多く、ハチマキは飛ぶようになくなった。

いっぽうで、現地観戦が出来ずにハチマキを他のファンに託した日本人男性は、「私の分まで日本を応援して」と英語のメッセージを連絡先とともにハチマキに書き込んだところ、意外にもロシア人女性から応援する写真が届き、微笑ましい交流のきっかけとなった。作戦を企画した池田重之さんは、「英語が苦手な日本人もロシア人との距離が一気に縮まり、コミュニケーションが生まれた。まさに狙い通り。」

「ぜひとも、律法学者ゼナスとアポロとが旅に出られるようにし、

彼らが不自由しないように世話をしなさい。」

テトスへの手紙3章13節。

イエスの高弟パウロは先頭に立って仕事をするタイプだったが、自身の弟子のテトスには他の弟子を助けるよう勧めている。ある事案に対して誰もが矢面に立つわけではないし、全ての人に関われるわけでもない。しかし関わっている人を助けることは出来る。福音宣教は牧師だけの仕事だと思っている人は多い。神を信じない人にイエスのことを伝えるのが苦手な人もいる。だが心配無用。そういう人は、福音の作戦現場で働く人を助ければよい。奇抜なアイデアや、小さなことを通して。そうすれば周りの人々との距離が縮まり、神が勝利と喜びをもたらしてくださる。

